

戦略の背景と目的

- ◆ サイバー領域の能力強化の中核は「ヒト」であるが、社会全体でサイバー人材確保・育成の需要が増大。
 - 防衛省・自衛隊においても組織・文化のしがらみを超えた検討が重要であり、
 - 国全体でどのようにサイバー人材を確保するかとの全体的な視点を持ち、自衛隊の人材育成を考える必要

サイバー人材総合戦略を策定し、①部内の人材施策の一貫性の確保と部内横断的な協力を推進し、さらに、②防衛省のサイバー人材の考え方を明らかにして外部との協力関係を構築・深化

サイバー人材に係る取組の方向性

- ◆ 人材施策を、①特定、②確保、③育成、④維持・管理、これら全てを統合するための⑤総合的な強化といった5つの柱に沿って検討。従来の考え方に捉われることなく、新たな取組を実施するとともに、既存の取組を抜本的に強化する。
- ◆ 社会全体のサイバー人材の循環の中に防衛省・自衛隊を位置づけ、好循環を生み出すとの視点を持ち、施策を検討。

具体的な取組

個々のサイバー人材の多様な役割や職階などに応じた新たなスキル評価指標の検討・策定（「特定」）

- サイバー分野での勤務を重視したキャリアパスの明確化、サイバー分野での予備自の活用（「確保」）
- 高等工科大学システム・サイバー専修コースや国内外の教育機関における教育コースの拡充（「育成」）
- スキル・意欲などに配慮した柔軟な配置、「サイバーき章」や特技等の検討による人事管理（「維持・管理」）
- 防衛省サイバーCOEの設置による産官学連携、リボルビング・ドアの実現（「総合的な強化」）

等の取組を通じて、自衛隊勤務に関心のある人、サイバーに知見のある人など幅広い人材を惹きつけ、能力強化を図る。

1. 戦略の背景と目的

2. 防衛省・自衛隊の任務とサイバー人材

3. サイバー人材に係る取組の方向性

(1) サイバー人材の「特定」に係る取組

サイバー人材のスキル評価指標の検討・策定

(2) サイバー人材の「確保」に係る取組

ア 入隊段階からサイバー人材としてサイバー業務に従事し続けられる制度の整備

イ 「サイバー予備自衛官」の拡充

ウ 自衛隊奨学生制度の活用

エ 防衛省サイバーコンテストの開催

オ 大学、高校、専門学校等における説明会やWeb等を通じた効果的なPR活動の実施

(3) サイバー人材の「育成」に係る取組

ア 陸上自衛隊高等工科学校のシステム・サイバー専修コースの拡充

イ 防衛大学校のサイバー・情報工学科への改編、教育強化

ウ 陸上自衛隊システム通信・サイバー学校の教育基盤の拡充、教育強化

エ 国内外の教育機関への留学、企業研修等の充実

(4) サイバー人材の「維持・管理」に係る取組

ア サイバー人材の柔軟な職種・職域等への配置

イ 「サイバーき章」を含む人事管理の方法の見直し

(5) サイバー人材に係る取組全体を総合的に「強化」するための施策

ア 防衛省サイバーCOEの設置

イ リボルビング・ドアの実現

ウ 産官学連携の強化

入隊段階からサイバー人材のキャリアパスを実現

サイバー分野への従事を志す人材の専門性をより高めるため、**入隊段階からサイバー分野に関連する業務に継続的に従事するキャリアパスを実現**する。

また、サイバーに関連する専門的な知識・資格及び業務経験のある人材については、**任期付自衛官やキャリア採用幹部（経験者採用）、技術曹として採用**し、その経験等を活かした業務に従事するポストに柔軟に登用する。

1. サイバー専門部隊の指揮官となる幹部自衛官【防大・一般大卒】

- サイバー関連業務を主軸としつつ、必要な節目ごとに方面総監部等において勤務を経験するキャリアパスを実現
- 陸自においては、**サイバーに特化した試験区分（一般幹部候補生（専門））の新設**により、入隊段階からこうしたキャリアパスを開始可能とする（令和7年度から募集開始予定）

2. サイバーのスペシャリストとして、作戦運用の中核となる幹部自衛官【一般大卒】

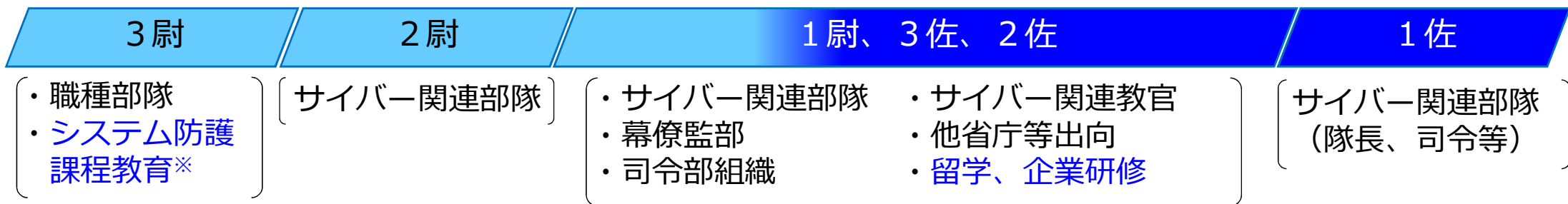
- サイバー関連業務を主軸としつつ、部内外の教育・研修にも比重を置いたキャリアパスを実現
- 新たな幹部任用制度を創設**し、サイバー人材についても入隊段階からこうしたキャリアパスを開始できるよう検討（令和7年度から募集開始予定）

3. サイバーの分野において、技術のエキスパートとなる准曹士【高校・高専・専門学校卒】

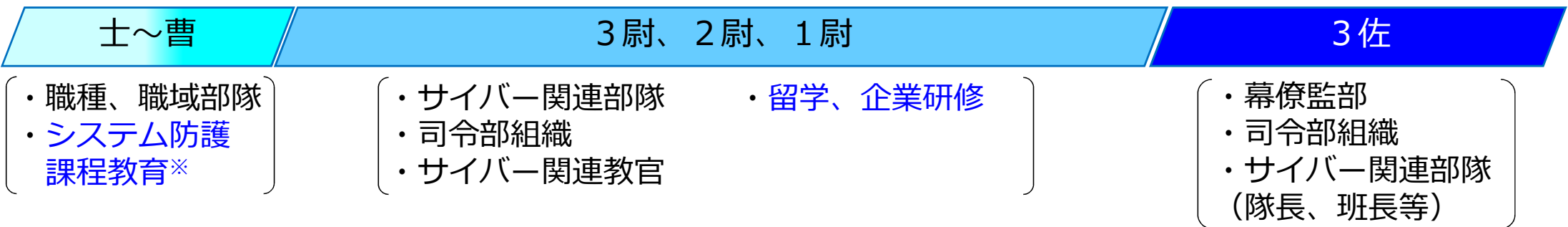
- サイバー分野の教育とサイバー専門部隊等への配置を中心としたキャリアパスを実現
- 入隊段階では、十分な業務経験は無くとも、**サイバーに関連する教育を受けた人材**については、本人の希望も考慮した上で、**サイバーに関連する職種・職域に配置**できる制度を整備
- 既にサイバー分野の知識やスキルを有する**高等工科大学卒業生**は、**さらにスキルアップ**しつつ、サイバー分野に関連する業務に継続的に従事し続けられるキャリアパスを実現

入隊段階からサイバー人材のキャリアパスを実現

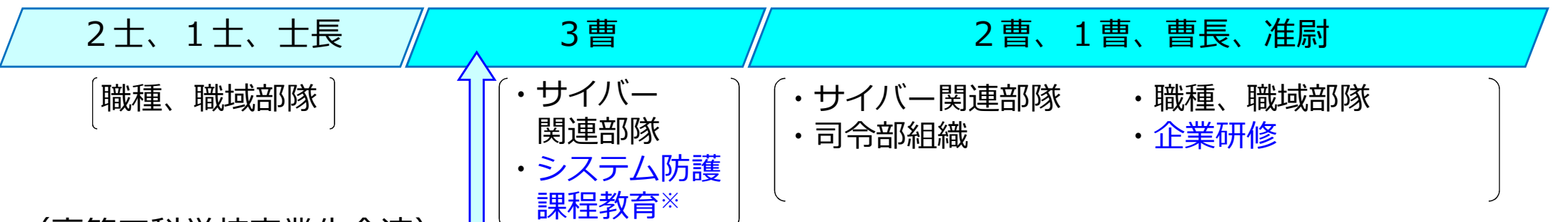
【サイバー関連部隊の指揮官職となる幹部自衛官のキャリアパスの一例】



【サイバーのスペシャリストとして、作戦運用の中核となる幹部自衛官のキャリアパスの一例】



【サイバーの分野において、技術のエキスパートとなる准曹士のキャリアパスの一例】



(高等工科学学校卒業生合流)

※陸上自衛隊システム通信・サイバー学校において、主としてサイバー攻撃対処等を担う部隊に配置する隊員に対して行う高度なサイバー専門教育

「サイバー予備自衛官」の拡充

常備自衛官とともに様々な任務に就くサイバーの技能を有する「サイバー予備自衛官」を拡充

サイバー予備自衛官の運用

常備自衛官を強力に補完する任務にあたるなど、自衛隊の運用の一端を担わせることを念頭に取り組むべき方向性を案出

取組の方向性

〈実効性の向上〉

- ① 現行の招集区分のあり方を含む運用構想の更なる深化を図る
- ② 訓練内容の更なる充実や訓練参加機会を拡充
- ③ サイバー予備自衛官の専門的技能をより隊務に活かす方策について検討
- ④ システムの維持整備を請負う役務契約企業の従業員が予備自衛官として活躍することのできる方策について検討

〈人材の確保〉

- ① 予備自衛官補として採用し、サイバー予備自衛官へ任用するための取り組みを強化
- ② 募集ターゲットを明確化し、職務の魅力ややりがいを訴えかける募集広報を積極的に展開
- ③ 規律、行動、チームワークが求められることに十分留意しつつ、スキルの高いサイバー人材の発掘
- ④ サイバー予備自衛官の役割に応じた身体検査基準の緩和（常備自衛官も含む。）
- ⑤ 予備自衛官補からサイバー予備自衛官への早期任用や、常備自衛官への採用についても検討

部外人材の受入れスキーム

- ✓民間のサイバー人材が集う組織などを把握
- ✓募集ターゲットを明確化しつつ、職務の魅力ややりがいを訴えかける募集広報を積極的に展開
- ✓サイバーに関する専門的知見を備えた優秀な部外の人材の発掘を目的として「**防衛省サイバーコンテスト**」を開催

サイバー人材の発掘



民間組織など



大学など



毎年 約1,000名が参加

サイバー人材の獲得

防衛省・自衛隊のサイバー人材

予備自衛官補

サイバー要員

防衛省・自衛隊のサイバー要員 約2万人体制

自衛隊サイバー防衛隊等のサイバー専門部隊 約4千人

サイバー予備自衛官

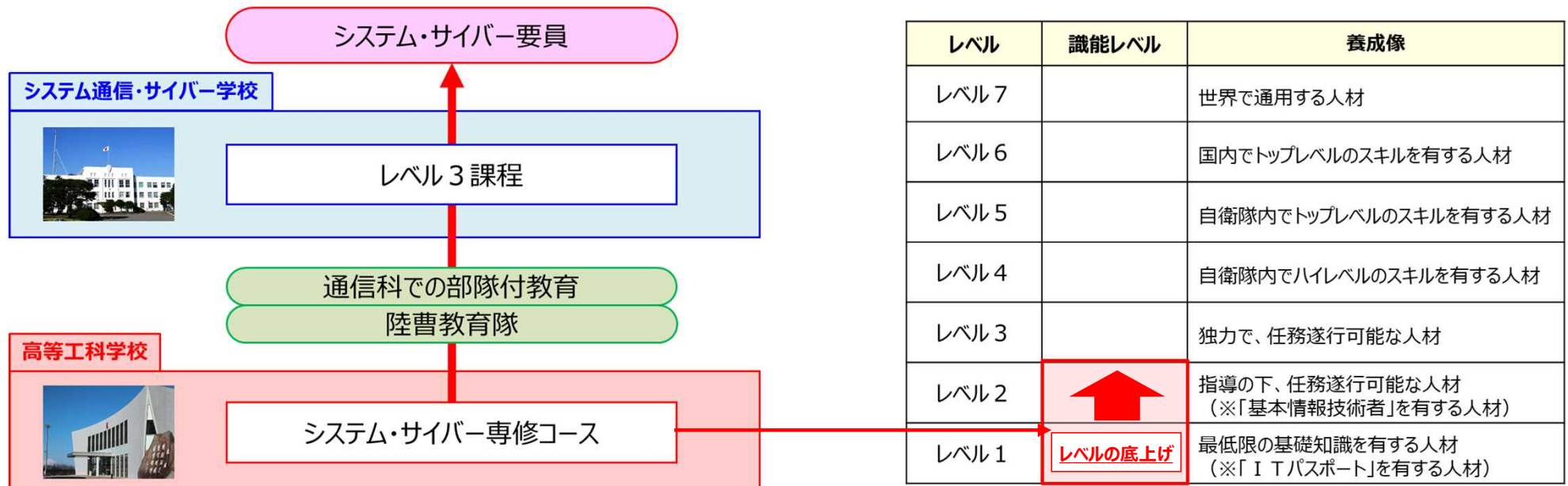
有事の際にこれらが一体となって対処

高等工科学校のサイバー教育の拡充

～サイバー要員の「ファストトラック」の確立～

- 高等工科学校のサイバーコースをサイバー専門部隊の中核となる**優秀な陸曹を輩出するサイバー要員の「ファストトラック」と位置**づけることで、防衛省・自衛隊のサイバーに係る能力の早期の向上を目指す
- こうした方向性を踏まえ、高等工科学校のサイバー教育の底上げを実施
 - ① 高等工科学校の**正規のサイバー教育の強化**（既存の教育の効率化含む）
 - ✓ 令和7年度からサイバーコースの要員を30人から60人に**拡充**
 - ✓ 将来的にサイバーコースの生徒全員が、民間資格である**基本情報技術者（レベル2相当）を取得できるレベル**を目指す 等
 - ② 意欲のある生徒（サイバーコース、サイバー部）を対象とした**課業外の教育の拡充**
 - ✓ 自衛隊サイバー防衛隊、企業、システム通信・サイバー学校と連携した**実践的な研修** 等
 - ③ 優秀な生徒がサイバーコースを志望する仕組み
 - ✓ キャリアパスの明確化と見える化 等

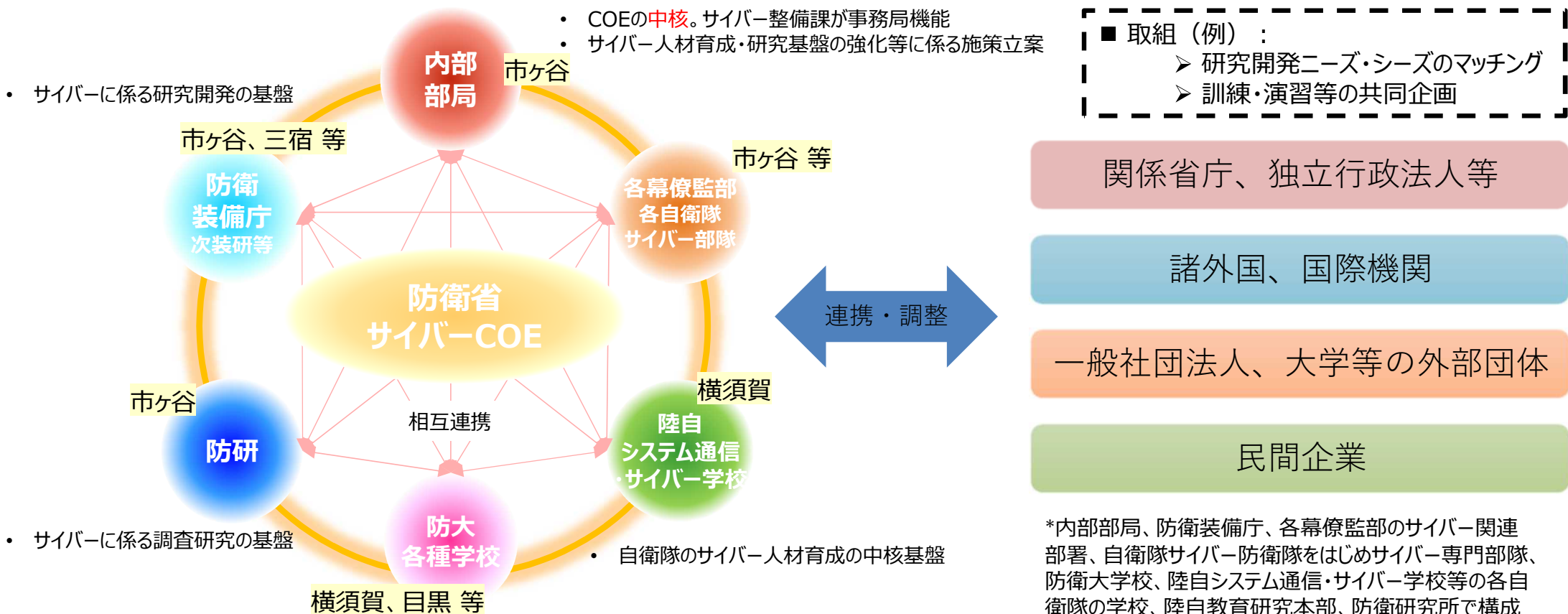
【高等工科学校のシステム・サイバー専修コース開講後における任官後のサイバー要員養成イメージ】



「防衛省サイバーCOE（Center of Excellence）」の設置

- 政策部局、研究機関、現場部隊等が広く参加し、**省内の知見を結集して組織横断的な取組を推進する**プラットフォームとして、**防衛省サイバーCOEを設置**。
- サイバーに係る調査研究、研究開発、人材育成、国際連携、産官学連携等について**組織横断的な連携を強化**。アイデアを共にブラッシュアップするなど、中央と現場のコミュニケーションを促進。
- さらに、部内のサイバー人材と部外のサイバー人材との好循環を実現するため、**部外の関係機関との連携を強化**。

※ COEとは、Center of Excellence（センターオブエクセレンス）の頭文字からなる略語。一般的には、重点分野において、組織を横断して取組を行う際に専門家を集めて設置する中核となる部署や研究拠点を指すことが多い。



■ 取組（例）：
 ➤ 研究開発ニーズ・シーズのマッチング
 ➤ 訓練・演習等の共同企画

- 関係省庁、独立行政法人等
- 諸外国、国際機関
- 一般社団法人、大学等の外部団体
- 民間企業

*内部部局、防衛装備庁、各幕僚監部のサイバー関連部署、自衛隊サイバー防衛隊をはじめサイバー専門部隊、防衛大学校、陸自システム通信・サイバー学校等の各自衛隊の学校、陸自教育研究本部、防衛研究所で構成（事務局：整備計画局サイバー整備課）

リボルビング・ドアの実現

- 社会全体においてサイバー人材の重要性が高まっている中、個人のキャリア形成も多様化していることも踏まえ、サイバー人材が循環するような仕組みの中で防衛省・自衛隊の人材確保・育成を考える必要
- リボルビング・ドアによる人材の好循環を促進
- キャリアアップのステップとして自衛隊が認知されるように取り組むとともに、防衛省・自衛隊から離れた人材を再度受け入れる意識改革も合わせて実施
 - ✓ 志望者の多様なライフプランやキャリアプランに対応する取組を実施
 - ✓ アルムナイ（防衛省・自衛隊を離職した方）の再採用を推進

具体的な採用の取組（例）

- キャリア採用幹部、技術曹採用（自衛官）
- （特定）任期付自衛官制度（自衛官）
- 経験者採用（事務官等）
- 任期付事務官制度、非常勤職員
- 民間での勤務経験も加味した再任用
- 官民人事交流

